

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度技術情報第5号(早期水稲の斑点米カメムシ類)について (送付)

早期水稲の斑点米カメムシ類について、以下のとおり取りまとめましたので送付します。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ (www.jppn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。



令和5年度 技術情報第5号

- 1 対象病害虫** 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ, シラホシカメムシ 等)
- 2 対象作物** 早期水稲
- 3 情報の内容**
 - (1) 発生地域 早期水稲地帯 (県本土)
 - (2) 発生時期 出穂期以降
 - (3) 発生量 並~やや少
- 4 予報の根拠**
 - (1) カメムシ類の捕獲箇所率は75.0% (平年: 75.7%) と平年並みで, 平均捕獲虫数は5.3頭 (平年: 11.5頭) で平年に比べて少なかった (表1, 表2)。また, 種別構成比はアカスジカスミカメが最も高く, 次いでホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ, シラホシカメムシ, ミナミアオカメムシの順であった (表1)。
 - (2) 県全体におけるカメムシ類の捕獲箇所の程度別割合は中程度以上が17.5%で, 平年 (28.2%) に比べて低かったものの (表2), ほ場への飛来に注意する。
- 5 防除上注意すべき事項**
 - (1) 斑点米カメムシ類による斑点米の混入は米の検査等級格下げにつながり, 特に早期水稲では品質低下の主な要因となる。
 - (2) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるので, 出穂の10日前頃までに畦畔の草払いなどのほ場管理に努め, 発生密度の低下を図る。
 - (3) 毎年斑点米被害が多い地域では, 穂揃期と穂揃期の7~10日後 (乳熟後期) の2回防除が基本である。特に乳熟後期の幼虫の発生には十分注意する。
 - (4) 防除は農薬の使用基準を遵守し, 農薬がほ場外に飛散しないようにする。

6 参考データ

表1 早期水稲周辺イネ科雑草地における種類別、地域別捕獲状況（令和5年6月2日）

地域	調査箇所数	項目	クモハリ	ホソハリ	ミミアオ	シラホシ	イネ	アカシジ	合計
			カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	
南 薩	20	平均捕獲虫数 ¹⁾	0.7	1.2	0.1	0.4	0.0	3.6	5.9
		捕獲箇所率(%) ²⁾	25.0	50.0	5.0	15.0	0.0	70.0	75.0
大 隅	20	平均捕獲虫数	0.2	0.7	0.1	0.2	0.0	3.5	4.7
		捕獲箇所率(%)	10.0	30.0	10.0	15.0	0.0	70.0	75.0
県全体	40	平均捕獲虫数	0.5	0.9	0.1	0.3	0.0	3.5	5.3
		捕獲箇所率(%)	17.5	40.0	7.5	15.0	0.0	70.0	75.0
		種別構成比(%) ³⁾	8.5	17.5	1.4	5.7	0.0	66.8	100.0
県全体 ⁴⁾		平均捕獲虫数	0.7	0.9	0.1	0.3	0.0	9.5	11.5

注) 1) 平均捕獲虫数=総捕獲虫数/調査箇所数 2) 捕獲箇所率(%)=捕獲箇所数/調査箇所数×100 3) 種別構成比(%)=捕獲虫数/総捕獲虫数×100
4) 平年は過去5か年(2018~2022年)の平均値

表2 早期水稲周辺イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の地域別、程度別発生割合（令和5年6月2日）

地域	調査箇所数	捕獲 ¹⁾ 箇所率	程度別発生割合 ³⁾				
			甚	多	中	少	無
南 薩	20	75	0.0	0.0	20.0	55.0	25.0
大 隅	20	75	0.0	0.0	15.0	60.0	25.0
県全体	40	75	0.0	0.0	17.5	57.5	25.0
県全体 ²⁾	56	75.7	3.6	7.1	17.5	47.5	24.3

注) 1) 捕獲箇所率(%)=捕獲箇所数/調査箇所数×100 2) 平年は過去5か年(2018~2022年)の平均値
3) すくい取り調査(捕虫網20回振り)の捕獲虫数を基準とし、甚:61頭以上,多:60~31頭,中:30~11頭,少:10~1頭,無:0頭